



「なるはや」は、だれに通じる？

令和8年10月20日（火）発行 文責：新堀 隆久

今週、伝えたいこと

言葉は、気持ちを運ぶ道具。相手の顔を思い浮かべて選ぼう。

今週、考えてみてください。いつも友達に使っている言葉を、先生や家の人に使ったら、どう聞こえるでしょうか。

「なるはやで返信ヨロ」。友達とのやりとりで、こんな言い方をしませんか。「なるはや」は、「できるだけ早く」という意味です。

毎年行っている文化庁の調査（令和7年度）で、「なるはやで」を使うことがある」と答えた人は、16～19歳で74.1%。ところが、70歳以上では7.2%でした。

さらに、ほかの人が使うのが「気になる」と答えた人は、全体で44.7%。70歳以上では、71.7%にのぼります。

反対の言葉もあります。「ツーカーの仲」（一言で話が通じる仲のよさ）を使う人は、16～19歳で3.6%。そして「気になる」と答えた人は、73.2%でした。60代以上では、6割台後半の人が使っています。

同じ日本語でも、世代によって、使うか、気になるかが、こんなにちがうのです。

この調査には、敬語の質問もありました。これからの敬語は、どうあるべきかを聞くと、

「伝統的な美しい日本語として、豊かな表現を大切にしたい」が全体で54.4%、「新しい時代にふさわしく、簡単で分かりやすいほうがよい」が32.7%でした。16～19歳は、それぞれ50.0%と31.3%で、全体とほぼ同じ形です。

敬語は、むずかしいから使うのではありません。世代がちがう人にも、「あなたを大切に思っています」と伝えるための、共通のものさしなのかもしれません。

友達には通じる言葉が、先生や家の人には、ちがう印象になることもあります。あなたは、話す相手によって言葉を選んでいきますか。

言葉は、気持ちを運ぶ道具です。相手の顔を思い浮かべて選ぶことが、思いやりの第一歩だと思います。